

## マチごとゼロカーボン市民会議 報告書（速報版）

### 要旨

- ・ 会議結果を所沢市マチごとエコタウン推進計画の改定及びゼロカーボンシティの実現に向けた施策に繋げることを目的として、自治体主催としては日本初の気候市民会議である「マチごとゼロカーボン市民会議」を開催しました。
- ・ 参加者は、無作為に抽出した上で参加希望のあった市民を、所沢市の人口構成等を考慮して51名選出しました。会議は全5回、令和4年8月から12月の日曜日に開催しました。第2回から第4回のテーマは、第1回の会議結果をもとに「商品選択」「食・農」「エネルギー」「住まい」「移動」「地域での連携」の6つとしました。各回ともに「有識者」「地域での実践者」「所沢市」による情報提供を行った上でグループ毎に対話を進めました。
- ・ 第4回と第5回の間全28項目からなるアンケート形式の投票を行い、設問に対する参加市民の支持率や意見について確認しました。最も支持された項目は「農産物の地産地消及び旬産旬消を促進する」、「教育を通じた連携を促進する」で、意見の散らばりが最も大きく見られた項目は「バスの利用を促進する」でした。
- ・ 第5回では、地区毎のグループに分かれ「所沢市の将来像」の対話や「対策アイデアの整理」を行いました。「所沢市の将来像」の図については、事務局が示した案に対して「道路整備」や「環境教育の追加・拡充」など、多くの意見が寄せられました。将来像の図については会議後に、第5回の意見を反映して修正しました。
- ・ 「対策アイデアの整理」では、居住地区の特性を考慮しながら、全28の投票項目を、①日常生活の工夫で実装できるか、②どの程度の時間軸で実装できるかの2つの軸による四象限に整理し、その結果には地区毎の状況を踏まえた違いがみられました。
- ・ 本報告書（速報版）は、市民の皆様に迅速に会議結果概要をお知らせするとともに令和5年2月の環境審議会の提出資料としても活用するため、作成しました。現在、別途詳細を記した報告書を作成中です。

## 第1章 開催趣旨・目的

### 1. 開催趣旨

地球温暖化の影響は熱波や豪雨、干ばつなどの形で地球全体に表れています。2019年の台風19号では所沢市内でも多くの被害が出て、各所に避難所が開設され、約900名の市民が避難する事態となりました。このような自然災害は今後も益々増えるとされており、私たちの生活を脅かす事態になりかねません。

地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を抑制するためには、一人ひとりが当事者としてこの問題を捉え、何をすべきか、何ができるかを考えていくことが重要です。

「マチごとゼロカーボン市民会議」は、選出された市民の皆様に、ゼロカーボンシティの実現に向け、市民生活に関する課題や対策について話し合っていただく場として開催しました。

### 2. 開催目的

参加者一人ひとりが地球温暖化問題を自分事として捉え、議論することで、問題意識を共有すると共に、会議結果を所沢市マチごとエコタウン推進計画の改定及びゼロカーボンシティ実現に向けた施策に繋げることを目的としています。

## 第2章 マチごとゼロカーボン市民会議の進め方

### 1. 実施体制

主催：所沢市

協力：早稲田大学人間科学学術院

(早稲田大学の協力について)

所沢市は、市内にキャンパスを置く早稲田大学（以下、「早大」）が保有する知的財産をまちづくりの資源として活かし、豊かな地域社会を創造するために、官学連携協定を締結しています。早大の持つ知見を活用して、会議をより有意義なものとするとともに、会議の結果を早大と共有し、その成果を市の施策に反映することで、環境分野を始めとした各分野において市民へのフィードバックが図られるよう、早大の協力のもと、市民会議を開催いたしました。

### 2. 参加者の抽出方法

無作為に抽出した4,500名の市民に「マチごとゼロカーボン市民会議」への参加案内を送付し、参加の可否に関わらず約600名から返信をいただきました。その中で参加を希望される111名の方から、性別・年代・居住地区等を考慮し、51名の参加市民を選出しました。

### 3. 会議内容

会議は8月から12月まで毎月1回、日曜日の午後1時から午後5時に開催しました。第2回から第4回にかけて話し合う6つのテーマは、初回の対話結果をもとに参加者に承認頂き決定しました。全体司会は平塚基志氏（早稲田大学人間科学学術院）、全5回のテーマと話題提供者は表のとおりです。

グループワークは、あらかじめ性別や年齢のバランスを考慮して分けられたグループで実施しました（第5回のみ東〔富岡、並木、松井、柳瀬〕、中央〔吾妻、新所沢、新所沢東、所沢〕、西〔小手指、三ヶ島、山口〕の地区別でグループを編成）。各グループにはファシリテーター（市職員）とサブファシリテーター（早稲田大学学生）が一人ずつ入り、議論の進行をサポートしました。尚、テーマ1からテーマ6に関する議論は、以下のように進めました。

#### 【テーマ討議の進め方】

① 専門家や実践者、市担当部局からの情報提供

② グループワーク

(テーマ1～5)

STEP1 生活の中や地域で取り組んだ方が良いと感じる取組

STEP2 実施するにあたっての課題

STEP3 課題への対処方法

(テーマ6)

STEP1 地域のステークホルダー（関係者）

STEP2 複数のステークホルダーの連携で実施できるアイデア

③ 全体共有

日程	内容	話題提供者（敬称略）
1日目 8月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催趣旨・目的</li> <li>・話題提供 「気候変動の現状と脱炭素の必要性」 「ゼロカーボンシティ実現に向けた所沢市の現状」 「カーボンフットプリントからみた所沢市の脱炭素型ライフスタイル」</li> <li>・グループワーク「ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取組んだ方が良いこと」</li> <li>・第2～4回で議論するテーマを決定</li> </ul>	所沢市マチごとエコタウン推進課  江守正多（国立環境研究所） 所沢市マチごとエコタウン推進課  小出瑠（国立環境研究所）
2日目 9月25日	テーマ1 『商品選択からゼロカーボンを考える』	渡部厚志（地球環境戦略研究機関） 中ノ理子（イオン株式会社） 日橋忠洋（所沢市環境推進員） 所沢市資源循環推進課
	テーマ2 『食・農からゼロカーボンを考える』	横沢正幸（早稲田大学） 澁谷正則氏（OEC マルシェ株式会社） 所沢市農業振興課
3日目 10月23日	テーマ3 『エネルギーからゼロカーボンを考える』	松原弘直（環境エネルギー政策研究所） 神藤年三（所沢市自治連合会役員） 所沢市マチごとエコタウン推進課
	テーマ4 『住まいからゼロカーボンを考える』	外岡 豊（埼玉大学） 上田マリノ（所沢市マチエコアンバサダー） 所沢市マチごとエコタウン推進課
4日目 11月27日	テーマ5 『移動からゼロカーボンを考える』	松橋啓介（国立環境研究所） 井原雄人（早稲田大学） 所沢市都市計画課
	テーマ6 『地域での連携からゼロカーボンを考える』	島田幸子（環境パートナーシップ会議） 神谷一彦（県立所沢高校）
5日目 12月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投票結果の共有</li> <li>・話題提供『里山の利用等』</li> <li>・グループワーク「所沢市の将来像」</li> <li>・グループワーク「対策アイデアの整理」</li> </ul>	所沢市マチごとエコタウン推進課 平塚基志（早稲田大学）

表 全5回のテーマと話題提供者

## 第3章 投票結果

### 1. 投票項目の作成方法

投票項目は、ゼロカーボンに関する対話から出されたアイデア（グループワークで模造紙に貼られた約2,000枚のポストイット）を再度整理し内容を精査したうえで、テーマ毎に5件程度、計28項目を設問として決定しました。尚、投票項目の詳細な説明は巻末の参考資料16頁から19頁をご確認ください。

### 2. 回答方法

28項目について「①全く推進すべきでない」から「⑤積極的に推進すべき」までの5段階の意見と「⑥わからない」の6つの選択肢の中から自分の考えに近いものに回答いただきました。また、テーマ毎に最優先と考える施策を1つ選択いただきました。

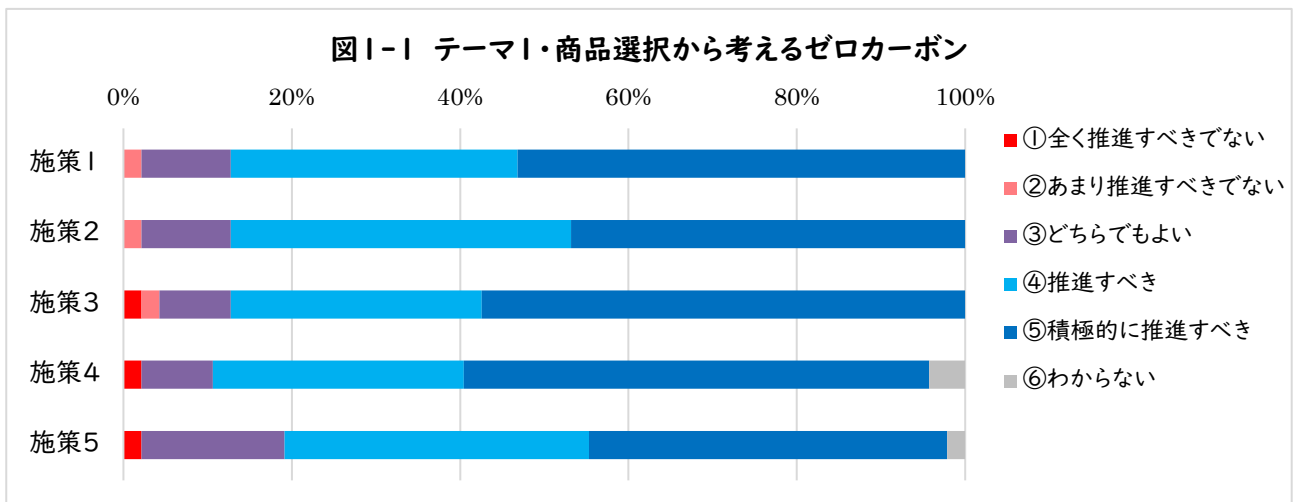
なお、各設問について自由記述欄を設け、その選択肢を選んだ理由等をご記入いただきました。

### 3. 回答状況

回答者数 47名（内訳：Web 41名・郵送 6名）

### 4. 集計結果

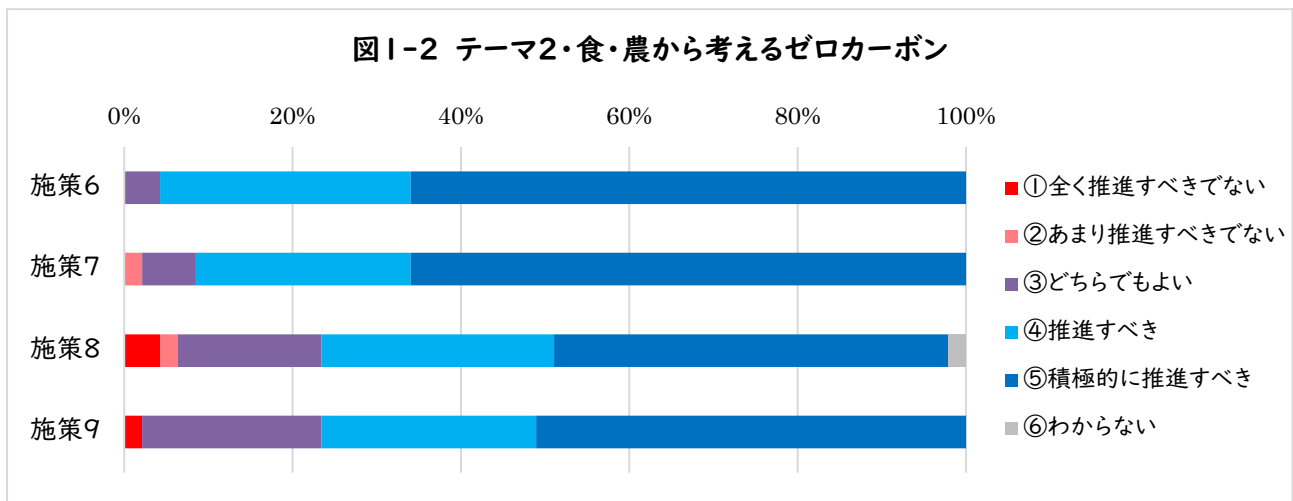
<b>テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』</b>		<b>最優先施策支持率</b>
施策1	容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	36.2%
施策2	リユースやリサイクルを促進する	8.5%
施策3	カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	21.3%
施策4	ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する	23.4%
施策5	所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する	10.6%



**テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』**

最優先施策支持率

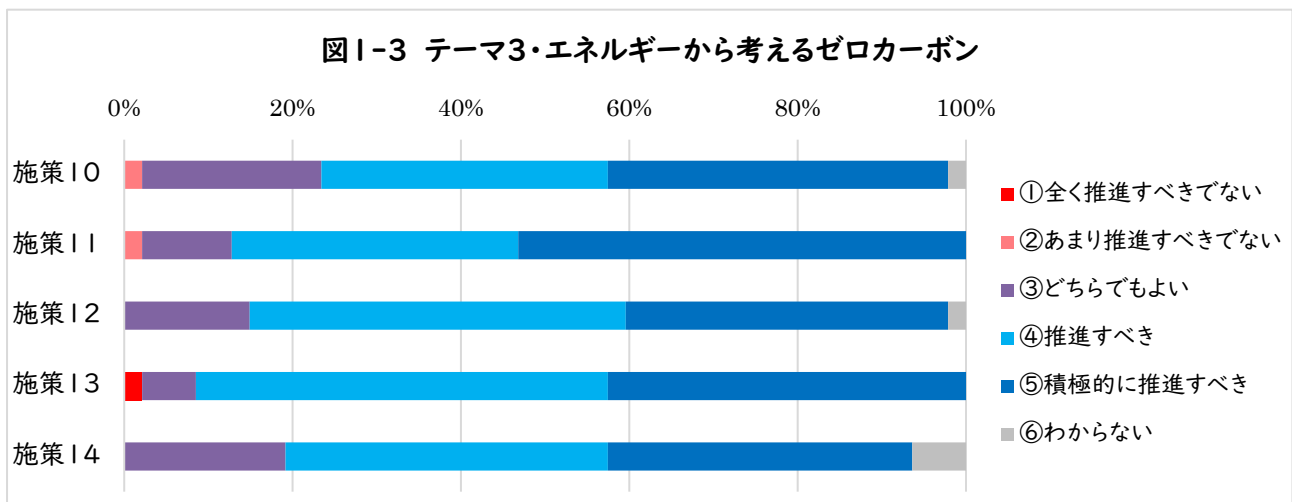
施策6	農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	27.2%
施策7	食品ロスを減らす	42.6%
施策8	ごみの堆肥化と活用	14.9%
施策9	食と農への理解を深める取組を推進する	14.9%



### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

#### 最優先施策支持率

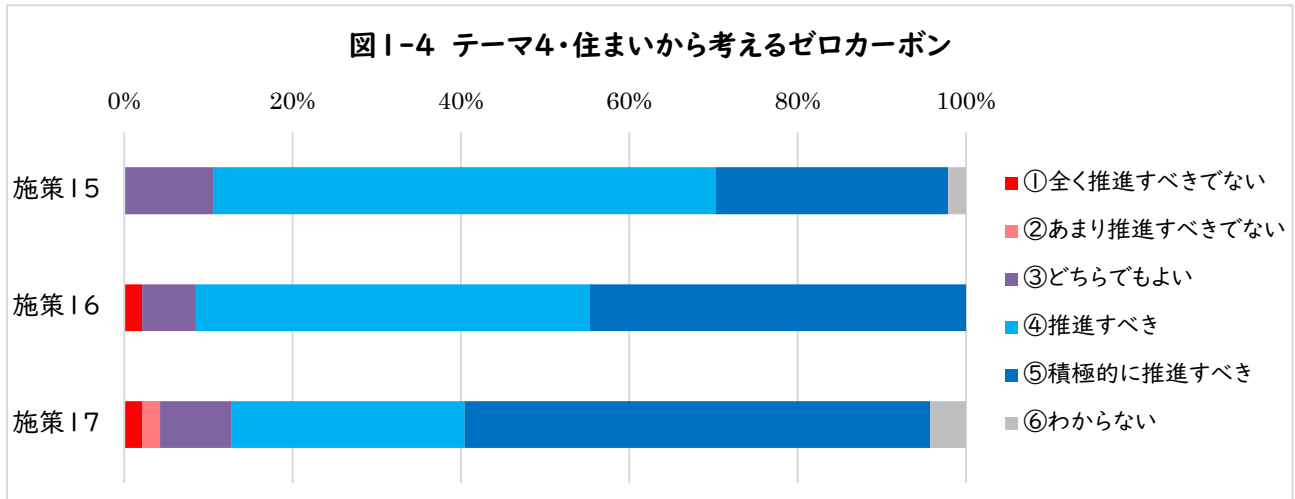
施策10	家庭向け太陽光発電を促進する	17.0%
施策11	地域における再エネ設備の設置を促進する	40.4%
施策12	再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進	4.3%
施策13	エネルギーに関する市民活動を促進する	23.4%
施策14	（株）ところざわ未来電力の利用拡大に努める	14.9%



### テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

#### 最優先施策支持率

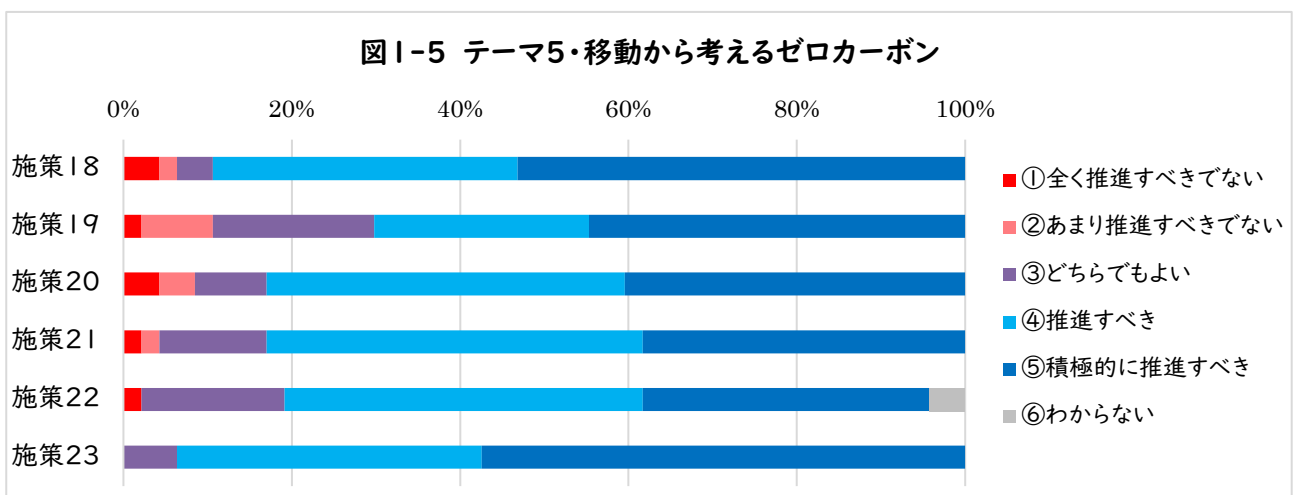
施策15	機器・設備などの省エネ化を促進する	25.5%
施策16	住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する	27.7%
施策17	まちに緑を増やす	46.8%



**テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』**

**最優先施策支持率**

施策18	自転車・徒歩での移動を促進する	17.0%
施策19	バスの利用を促進する	12.8%
施策20	自家用車を使わなくてもよいまちづくり	17.0%
施策21	エコ車両の利用とエコドライブの促進	12.8%
施策22	輸送の削減と効率化を図る	4.3%
施策23	自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	36.2%

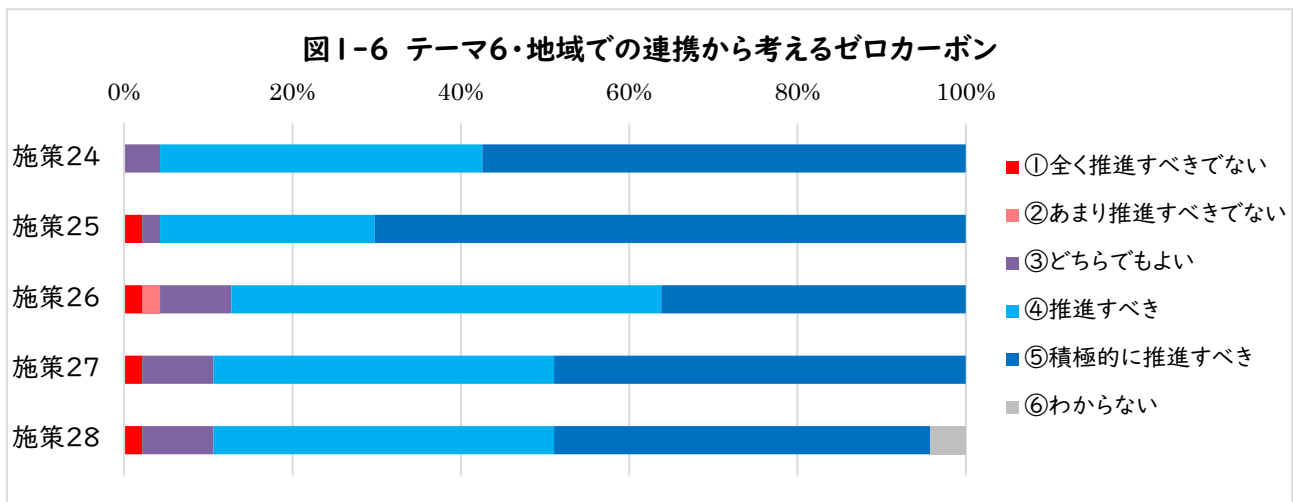




**テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』**

**最優先施策支持率**

施策 24	地域の連携をまちづくりに生かす	17.0%
施策 25	教育を通じた連携を促進する	38.3%
施策 26	地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する	14.9%
施策 27	コミュニティでの取組を促進する	6.4%
施策 28	まちごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る	23.4%



## 5. 集計結果（散布図）

### 【横軸：平均点】

投票結果の支持度に重みづけをするため、①～⑤の各選択肢に以下のとおり配点して各回答数に乘じ、その合計値を全回答数（「⑥わからない」は除く）で除した数を「平均点」としました。この数値が大きいほど施策に対する全体的な支持度が高いことを示しています（最大値：5.00）。

〔配点：①全く推進すべきでない＝1点、②あまり推進すべきでない＝2点、③どちらでもよい＝3点、④推進すべき＝4点、⑤積極的に推進すべき＝5点〕

【縦軸：標準偏差】 施策に対する参加者の意見（選択）の散らばり具合を示しています。数値が0に近いほど参加市民の選択がまとまっており、数値が大きいほど個々人の選択が分かれていることを意味しています。

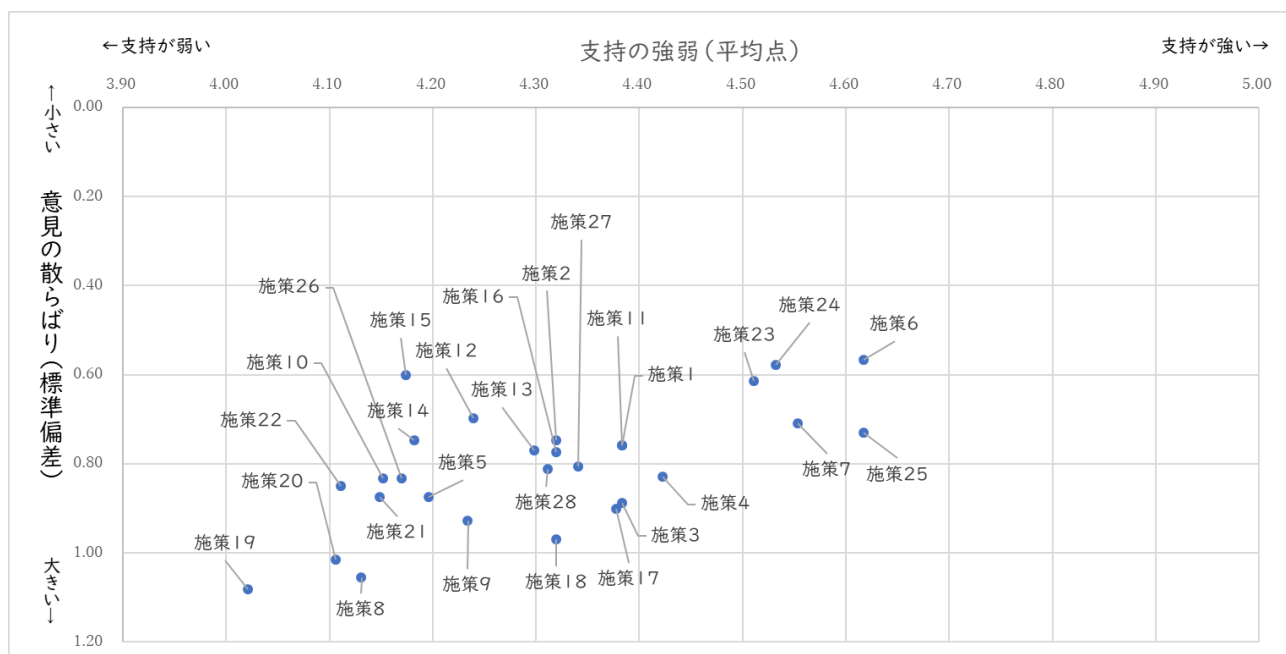


図 1-7 投票結果の散布図

### （参考：投票項目一覧）

#### テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』

施策 1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する

施策 2. リユースやリサイクルを促進する

施策 3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する

施策 4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する

施策 5. 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する

## テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

- 施策 6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する
- 施策 7. 食品ロスを減らす
- 施策 8. ごみの堆肥化と活用
- 施策 9. 食と農への理解を深める取組を推進する

## テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

- 施策 10. 家庭向け太陽光発電を促進する
- 施策 11. 地域における再エネ設備の設置を促進する
- 施策 12. 再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進
- 施策 13. エネルギーに関する市民活動を促進する
- 施策 14. (株)とこざわ未来電力の利用拡大に努める

## テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

- 施策 15. 機器・設備などの省エネ化を促進する
- 施策 16. 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する
- 施策 17. まちに緑を増やす

## テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』

- 施策 18. 自転車・徒歩での移動を促進する
- 施策 19. バスの利用を促進する
- 施策 20. 自家用車を使わなくてもよいマチづくり
- 施策 21. エコ車両の利用とエコドライブの促進
- 施策 22. 輸送の削減と効率化を図る
- 施策 23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める

## テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』

- 施策 24. 地域の連携をマチづくりに生かす
- 施策 25. 教育を通じた連携を促進する
- 施策 26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する
- 施策 27. コミュニティでの取組を促進する
- 施策 28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る

## 第4章 マチごとゼロカーボン将来像

### 1. マチごとゼロカーボン将来像（案）の作成方法

市民会議での対話を通して出されたアイデアを反映し、「マチごとゼロカーボン将来像（以下、「将来像）」を作成しました（図 4-1）。具体的には、第2回目から第4回目までの6つのテーマでのゼロカーボンに関する対話から出されたアイデア（グループワークで模造紙に貼られた約2,000枚のポストイット）を俯瞰し、1) 出されたアイデアをできるだけ反映すること、2) 所沢市の景観、公共交通機関、土地利用等の特徴を踏まえること、そして3) アイデアの実装によりゼロカーボンを実現できることの3つを重要視しました。

その際、地域の特徴をより反映させるため、第2章に詳述の通りグループ構成は東、中央、西の3つの地区別としました。グループワークでは、1) 6つのテーマで対話したゼロカーボンへのアイデアが反映されているか、2) イラスト化した将来像（案）に新たな気づきやアイデアがないか、そして3) 将来像（案）への改善点の抽出を対話しながら進めました。その結果、「気候変動に関する学びの場（教育の場・機会）を広げ、同時に情報発信も行う」や「温室効果ガスの排出削減を最優先にした行動（例えば、自家用車での移動に頼らざるを得ない地域、菜食やアルコールを控える等の食の選択）が困難な場合もある。人や社会の分断を招かないように地域特性や個人の状況等への配慮も必要になる」といった改善点が示されました。

### 2. マチごとゼロカーボン将来像の特徴

グループワークで出された改善点を反映し、将来像を作成しました（図 4-2）。なお、将来像は所沢市内の特定の地域を想定して作成されてはいません。ゼロカーボンシティとしての所沢市の街並みの代表的なものを想定しました。また、将来像はおおむね昼間を想定したスナップショットです。このため、夜間の自転車移動の際に必要な街灯の充実、防犯対策、その他は反映していません。

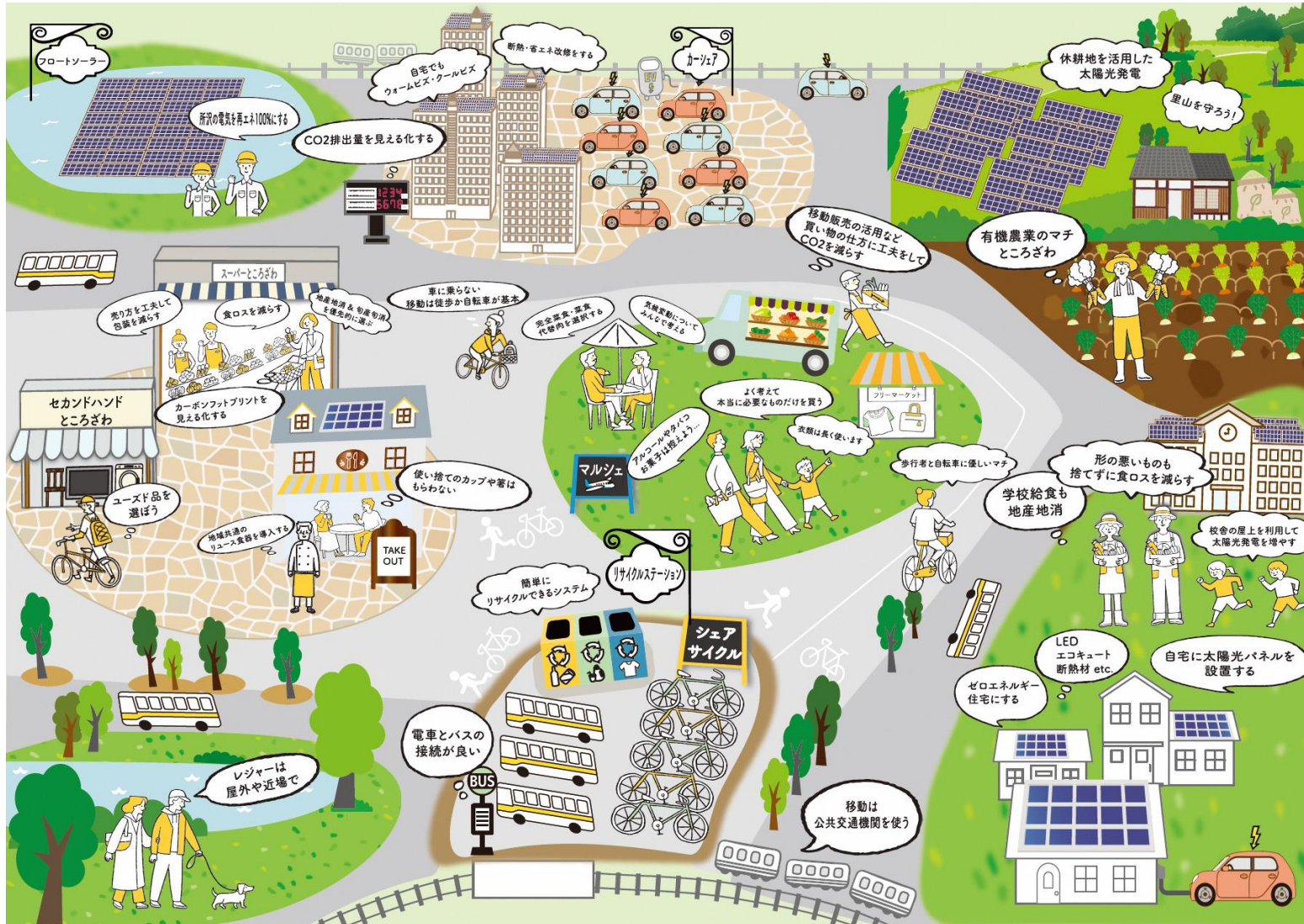


図 4-1 マチごとゼロカーボン市民会議での対話を踏まえて作成したマチごとゼロカーボン将来像(案)





## 第5章 ゼロカーボンへの対策アイデアの整理

### 1. ゼロカーボンへの対策アイデアについての対話方法

全5回の市民会議での対話を通して出されたゼロカーボンへのアイデア(以下、「対策アイデア」)は、所沢市全域の景観、公共交通機関や道路等の社会インフラの整備状況、農地や二次林を含む土地の利用等の特徴を踏まえてとりまとめられました。しかし、その際には対策アイデアを出し切ることに注力するため、対策アイデアをどのように社会実装するかについての時間的及び社会経済的制約には十分に留意しませんでした。一方、実際にゼロカーボンを実現するにあたっては、所沢市内のそれぞれの地区の特徴を踏まえることが重要になります。また、2030年を目途に温室効果ガス排出量を半減し、その上で2050年の温室効果ガス排出量の実質ゼロに到達するという時間軸に基づくこと、そして日常生活での行動変容を可能にする社会経済的な後押しが求められます。このため、所沢市を東、中央、西の3つに分け、それぞれに居住する市民によって構成されたグループにより、対策アイデアを整理しました。

対策アイデアの整理にあたっては、「第3章 投票結果」で整理した全28の投票項目を用いて、①日常生活の工夫で実装できるか、②どの程度の時間軸で実装できるかの2つの軸を設定しました(図5-1)。その上で、グループワークでは、1)全28の投票項目の確認・振り返り、2)地区の特徴を踏まえての対策アイデアの重要性についての対話、そして3)対策アイデアの整理の順で進めました。なお、各グループの対話結果は巻末の参考資料20頁から22頁をご参照ください。

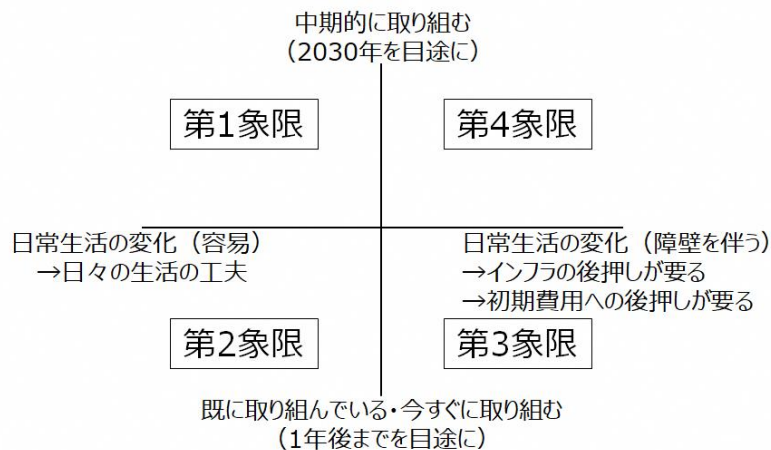


図5-1 地区ごとの対策アイデアの整理にあたっての4つの象限

### 2. 地区ごとのゼロカーボンへの対策アイデア

#### 2.1 東地区(富岡・並木・松井・柳瀬)

東地区の特徴としては、JR武蔵野線の東所沢駅があるものの、相対的に鉄道の利便性が低いことが挙げられます。また、集合住宅(とくに高層マンション)は少なく、戸建て住宅の割合が大きいこと、加えて、「落ち葉堆肥農法」による農地が広がり自然度が高いという特徴があります。

東地区のグループにより整理された対策アイデアの特徴としては、日常生活の変化が容易であ

り、かつすぐに取り組可能な「第2象限」の位置する対策として、「18. 自転車・徒歩での移動を促進する」が位置づけられました。同時にそのために必要となる「20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり」が第4象限に位置づけられ、日常生活の工夫を後押しするためのまちづくりの重要性が示されました。

## 2.2 中央地区（吾妻・新所沢・新所沢東・所沢）

中央地区の特徴としては、西武池袋線と西武新宿線の各駅へのアクセスが容易で、相対的に鉄道の利便性が高いことが挙げられます。また、所沢駅から西所沢駅にかけては集合住宅（とくに高層マンション）が多いです。加えて、所沢駅西口のプロペ通りをはじめととして商業施設が多いという特徴があります。

中央地区のグループにより整理された対策アイデアの特徴としては、日常生活の変化が容易であり、かつすぐに取り組可能な「第2象限」の位置する対策として、「28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る」、「26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する」、そして「27. コミュニティでの取組を促進する」といった、市民による連携・協働による実施体制が位置づけられました。また、他の地区との違いとして、日常生活との関連性が大きくないことから、「18. 自転車や徒歩での移動を促進する」や「20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり」についての対話が少なかったです。

## 2.3 西地区（小手指・三ヶ島・山口）

西地区は西武池袋線及び西武山口線の各駅へのアクセスが容易で、相対的に鉄道の利便性が大きい一方、地区の西側は公共交通機関がバスに限られ、かつ丘陵にかけては自転車の利用が難しいという特徴があります。また、丘陵には自然度の高い二次林（里山）が残ると同時に、ニュータウンがあることも特徴です。

西地区のグループにより整理された対策アイデアの特徴としては、「11. 地域における再エネ設備の設置を促進する」や「10. 家庭向け太陽光発電を促進する」といった土地・家屋を利用することによる再生可能エネルギー導入に関する対策アイデアについて対話が深まったことが挙げられました。日常生活の変化が容易であり、かつすぐに取り組可能な「第2象限」の位置する対策として「2. リユースやリサイクルを促進する」が挙げられたものの、顕著な傾向はありませんでした。



## 参考資料： 投票項目の詳細（全 28 項目）

### テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』

#### 1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する

商品を購入する際、プラスチックなどの容器や包装がない、もしくは少ない商品を選択する。また、マイボトルの利用などの日常生活の工夫に加え、商品を購入する際にはレジ袋を使わない。事業者等は地域共通のリユース容器を繰り返し使えるような仕組みを作る。

#### 2. リユースやリサイクルを促進する

商品そのまま繰り返し使用している「リユース品」や、リサイクル原料を使用している「再生品」を意識し、このような商品を積極的に選択する。不要になったものはすぐに捨てず、リユースやリサイクルが可能かどうか確認し、可能であれば積極的にリユースやリサイクルに回す。また、前提として商品を購入する際には、まずそれが本当に必要なものか、また長く使うことができるものかを十分検討することを心掛ける。事業者や行政は、リユースやリサイクルの仕組みや回収場所などの情報を発信し、簡単にリユースやリサイクルに取り組めるような環境づくりに取り組む。

#### 3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する

行政と事業者等が連携して、商品のカーボンフットプリントやリサイクル原料の割合などの「見える化」を進め、キャラクターなどを使って認知度の向上を目指し、商品のパッケージや売場にわかりやすく表示する。消費者は輸送距離の短いもの、保存や販売にかかるエネルギーが少ないもの、カーボンフットプリントが小さい商品やサービスを選択・購入するよう努める。

#### 4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する

日常生活でカーボンフットプリントが小さい商品の購買を促進するため、そうした商品にポイント付与するシステムを導入する。行政は事業者がカーボンフットプリントの小さい商品を優先できるよう助成し、CO<sub>2</sub>の削減と事業者による利益追求の両立を促進する。

#### 5. 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する

カーボンフットプリントの小さな商品を多く取り扱っている店、CO<sub>2</sub>削減に努めている会社などに、「所沢ゼロカーボン認証（仮）」を付与し、ゼロカーボンへの取組を促進するとともに、店舗に認証マークなどを掲示し、市民にもゼロカーボンに資する買い物ができるお店等をアピールする。同時に、市民は認証店を積極的に活用する。

### テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

#### 6. 農産物の地産地消及び旬産旬消を促進する

地産地消及び旬産旬消により CO<sub>2</sub> 排出量を軽減できることを理解し、地元の旬な農産品を購入するよう努める。また、直売所を増やし、地元の野菜に触れる機会を増やすとともに、学校給食に地元野菜を取り入れ、周知啓発に努める。

#### 7. 食品ロスを減らす

食品ロスに関する環境問題について理解し、食料品を購入する際には、すぐに食べるのであれば期

限が迫ったものを選択する。また、過剰に購入してしまった食料品は地域で分配する。

#### **8. ごみの堆肥化と活用**

家庭から出る生ごみや落ち葉を使って堆肥を作り、市内での農産品づくりや公園の緑化などに活用する。また、落ち葉を使った堆肥の利用を進める。

#### **9. 食と農への理解を深める取組を促進する**

農業体験イベントや収穫ボランティア体験などの機会を通して農業を学ぶことにより、地産地消や、食べ物を大切に作る意識の醸成による食ロスの削減を促進する。また、有機農法の効果を理解する。

### **テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』**

#### **10. 家庭向け太陽光発電を促進する**

自宅や集合住宅に積極的に太陽光発電設備を導入する。太陽光パネル等の創エネ機器や蓄電池の設置を拡大させるため、市は、経済的支援制度の充実や行政が推奨する業者の紹介、製品開発を促進させる。また、自治会やマンションでの設置の成功事例を発信する。

#### **11. 地域における再エネ設備の設置を促進する**

市域内の公共施設や空き地、商業施設を活用し、太陽光パネルや小型風力発電等の創エネ機器設置を実施する。また、利用者の比較的多い施設・遊び場を中心に太陽光パネルを設置し、身近で再エネに触れる機会を増加させる。再エネを拡大させる手段として、事業者への設置を義務化する。

#### **12. 再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進**

再エネ電力への契約切り替えを促進する。また、再エネ電力への切り替え、再エネ開発・導入に積極的な企業に対し、優遇措置を行う。

#### **13. エネルギーに関する市民活動を促進する**

エネルギーに関する市民活動を促進させるため、情報発信を強化する。情報発信方法の工夫として、スマートフォン等のアプリでのプッシュ通知など、市民が手軽に情報を受け取る仕組みを取り入れる。また、行政が行う環境の取組に、高校生や大学生のボランティアが活躍できる場を作り、市民活動を実践していく人材を育成する。

#### **14. (株)ところざわ未来電力の利用拡大に努める**

(株)ところざわ未来電力(以下、未来電力)の利用拡大を推進するため、すでに実施している未来電力の加入メリットの強化を図る。

### **テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』**

#### **15. 機器・設備などの省エネ化を促進する**

戸建住宅と集合住宅の双方でエコ住宅化を促すため、住宅のエコ診断による省エネ機器・設備導入や、中古住宅のエコリフォームを促進する。また、それらの導入効果を見える化し、経済的支援や信頼できる事業者の情報もあわせて発信を行う。同時に、太陽光発電の導入や蓄電池の導入によるエコ住宅化を進める。

#### **16. 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する**

日常生活での節電などに加え、遮光カーテンの導入、植物を利用した緑のカーテン、ソーラーッキングなどを積極的に取り入れることや、早寝早起や日当たりのよい場所での読書（照明はオフ）といったライフスタイルから省エネを促進する。事業者は、エコなモデルハウスを増やしていくことで周知を図り、楽しみながら省エネができるポイント制度等を整備する。

#### **17. まちに緑を増やす**

屋上緑化や壁面緑化、アスファルトから土屋芝生の道路に変更することで、ヒートアイランド対策を進め、省エネに繋げる。

### **テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』**

#### **18. 自転車・徒歩での移動を促進する**

コンビニエンスストアや公共機関等にシェアサイクルの設置箇所を増やし、シェアサイクルを利用しやすくする。また、徒歩移動を促す「埼玉県コバトン健康マイレージ」のような、市民が歩くことによりポイントを得られる制度を進めるとともに、徒歩自体が楽しくなるような、散歩コース、遊歩道を整備・周知する。

#### **19. バスの利用を促進する**

バスの利用を促進するため、便数、ルート数、乗り場を増加し、ルート上であればどこからでもバスに乗れるようにする。また、利用者がバス停の表示板やスマートフォンでバスの位置を把握できるようにする（バスロケーションシステム）と共に、電車に乗り継ぎしやすい時刻表に設定する。さらに、車を持たない世帯や住居が駅から遠い方に、乗車料金を優遇する。

#### **20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり**

公共交通の拠点となる駅の周辺に、病院や行政、商業施設などを集め、歩いて用事を済ませられるまちを複数つくる。また街中での渋滞をなくし、歩行者などの安全性を高めるため、市街地には自家用車が入れないようにし、周辺に駐車場を配置する。市は計画的に用地を確保し、まちの整備にいかしていく。

#### **21. エコ車両の利用とエコドライブの促進**

市民は電気自動車、燃料電池車、ハイブリッド車を使うようにし、渋滞を避ける運転やエコドライブを行う。行政は電気自動車、燃料電池車の購入時の補助額を高め、わかりやすく発信する。自動車会社は、豊富なラインアップで電気自動車を販売する。また、社会全体で電気自動車の充電場所を増やしていくとともに、カーシェアも整備していく。

#### **22. 輸送の削減と効率化を図る**

自家用車を使わなくても日常の買い物ができるよう、スーパーマーケットはエコな自動車を使った配送サービスを整備する。また近くにスーパーがない地域には、移動スーパーのサービスを行う。コンビニは、搬入回数を減らせるよう配送制度を整える。また、事業者が連携して、宅配物・郵便物をまとめて運べるようにする。

### **23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める**

自転車通行レーン・自転車用道路、歩道の整備を推進し、自転車・徒歩交通の利便性を向上させるとともに、ガードレールや街灯が不足している道路、段差・凹凸の多い道路の整備を進め、交通の安全性を確保する。道路整備の財源とする寄付制度等を創設し、寄付者に特典を付与する。

## **テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』**

### **24. 地域の連携をマチづくりに生かす**

高齢者や小中学生、自治会等が連携して、ゼロカーボンのマチづくりを進めていく。例えば、高齢者や小学生といった交通弱者の意見を反映して歩道や自転車道を整備したり、自治会と農家の連携により貸農園を拡大するとともに、遊休地での太陽光パネルの設置等を進める。

### **25. 教育を通じた連携を促進する**

大人から子どもまですべての世代へのゼロカーボンに関する教育を充実する。大学生から小中学生へ、環境活動実践者から学生へ等、ゼロカーボンへの取組を、世代間や属性間で情報交換・教え合うことを促進する。生涯学習推進センターなどで「ゼロカーボン講座（仮）」を開催し理解を深める。また、例えば自動車学校でエコドライブ講習を行う。

### **26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する**

行政、事業者、自治会、市民が連携して、ゼロカーボンについて啓発・広報する。例えば、行政と出版社が協力してアニメを使ってゼロカーボン活動について啓発・広報したり、自治会やマンションごとのCO2排出量が見えるように関係者や企業が連携する。

### **27. コミュニティでの取組を促進する**

農家、地域の店舗、自治会、学校・学生、マンション管理組合などが協力し、ゼロカーボンに係る地域の活動を行っていく。例えば、多世代・多職種によるバザーでの衣類のリユースを行ったり、おしゃれなマルシェを立ち上げ、農産品の地産地消を進めるほか、自治会館等に移動販売車を招いての共同購入を進める。また、余った食品の分配を行い食品ロスを削減する。

### **28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る**

高校生、大学生、高齢者といった複数の世代が参加・連携し、ゼロカーボンを進めやすいマチづくりを計画・実装するとともに、それを強化するため、ゼロカーボンに向けた取り組みを評価する機関・委員会を設置する。また、市民がゼロカーボンに取り組むために、事業者や行政に要望を伝えたり、地域の多様な主体が対話を通して一緒に活動を考えたりする場を作っていく。

# 参考資料： 地区ごとの対策アイデアの整理

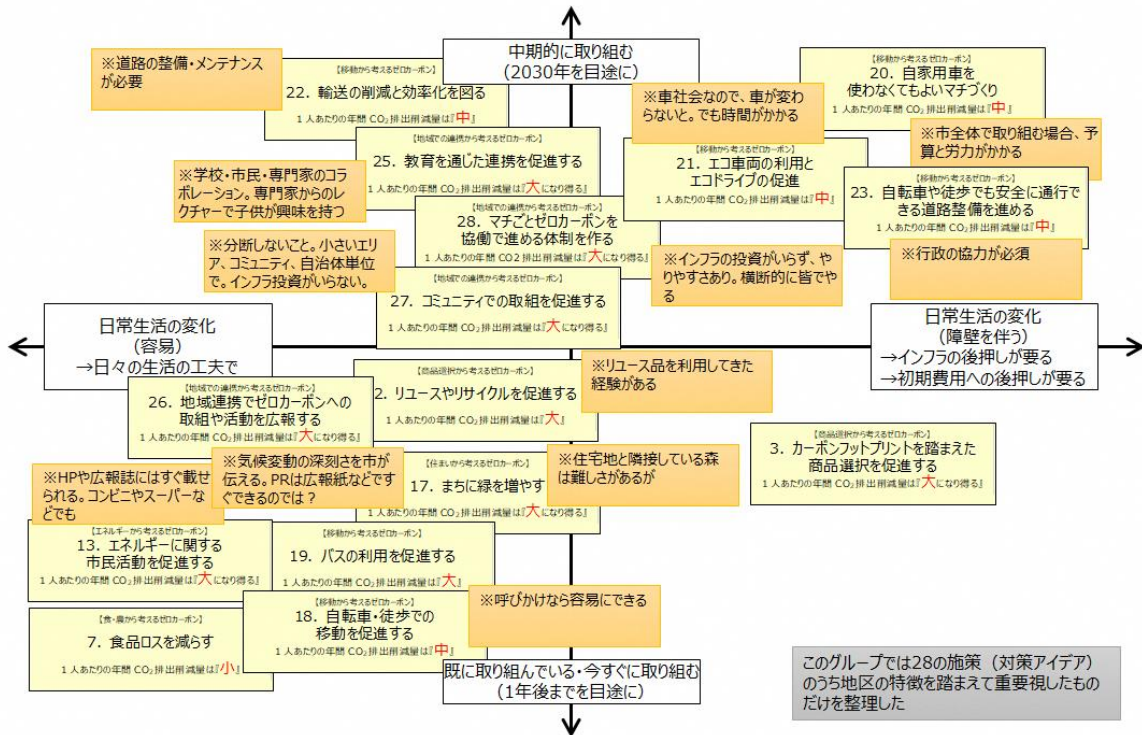


図 5-2 東地区グループ 1 による対策アイデアの整理

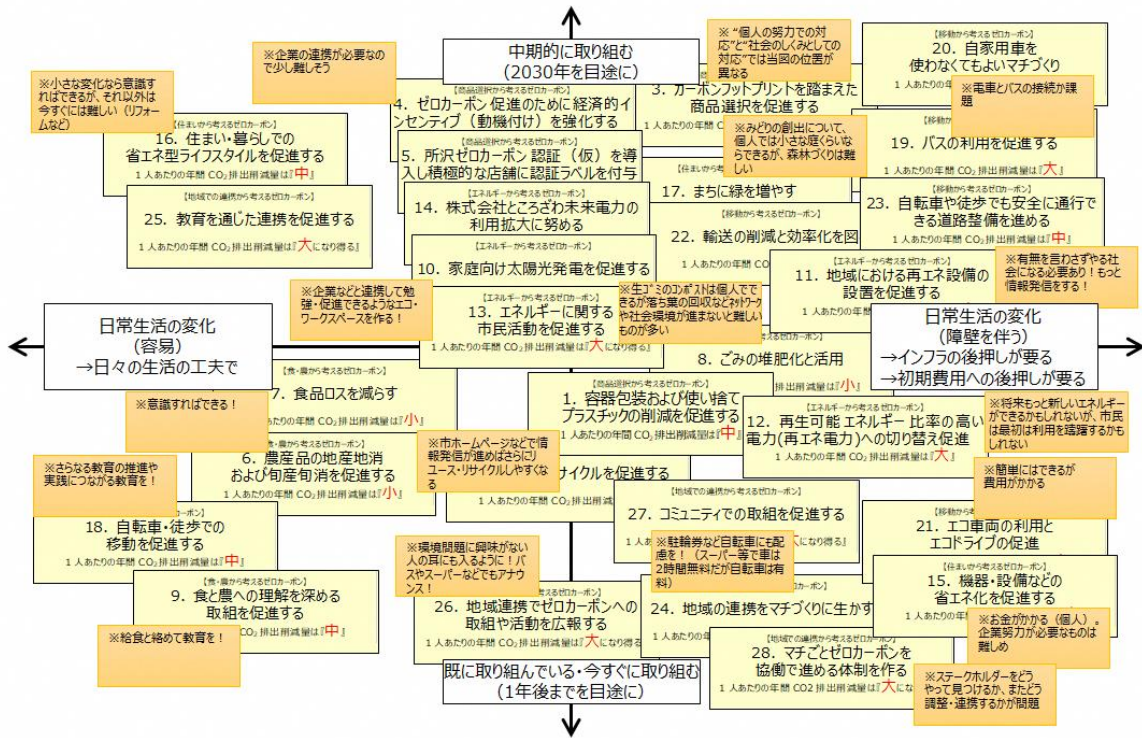


図 5-3 東地区グループ 2 による対策アイデアの整理



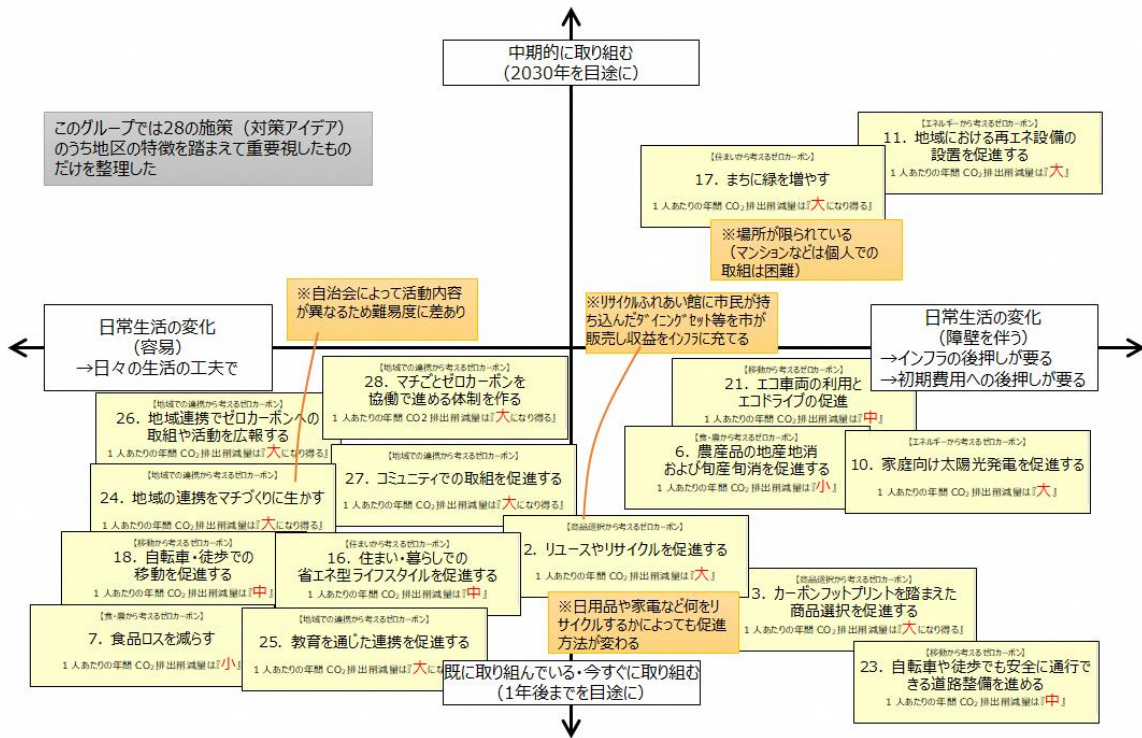


図 5-4 中央地区グループ 1 による対策アイデアの整理

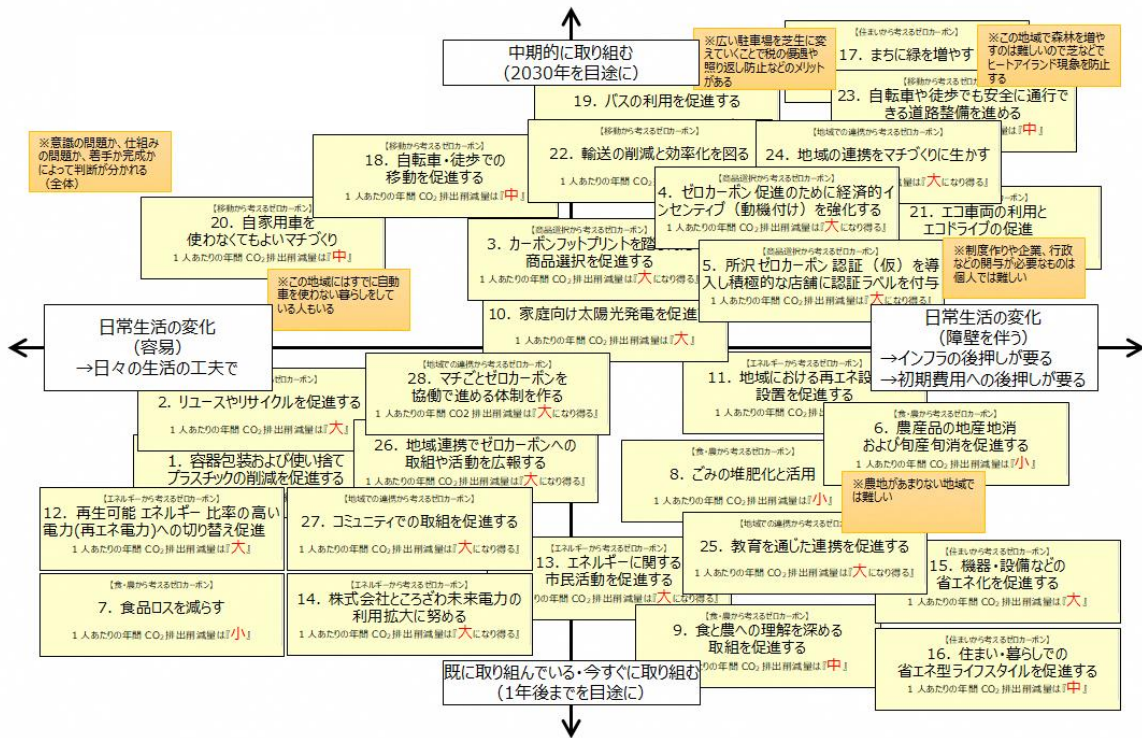


図 5-5 中央地区グループ 2 による対策アイデアの整理

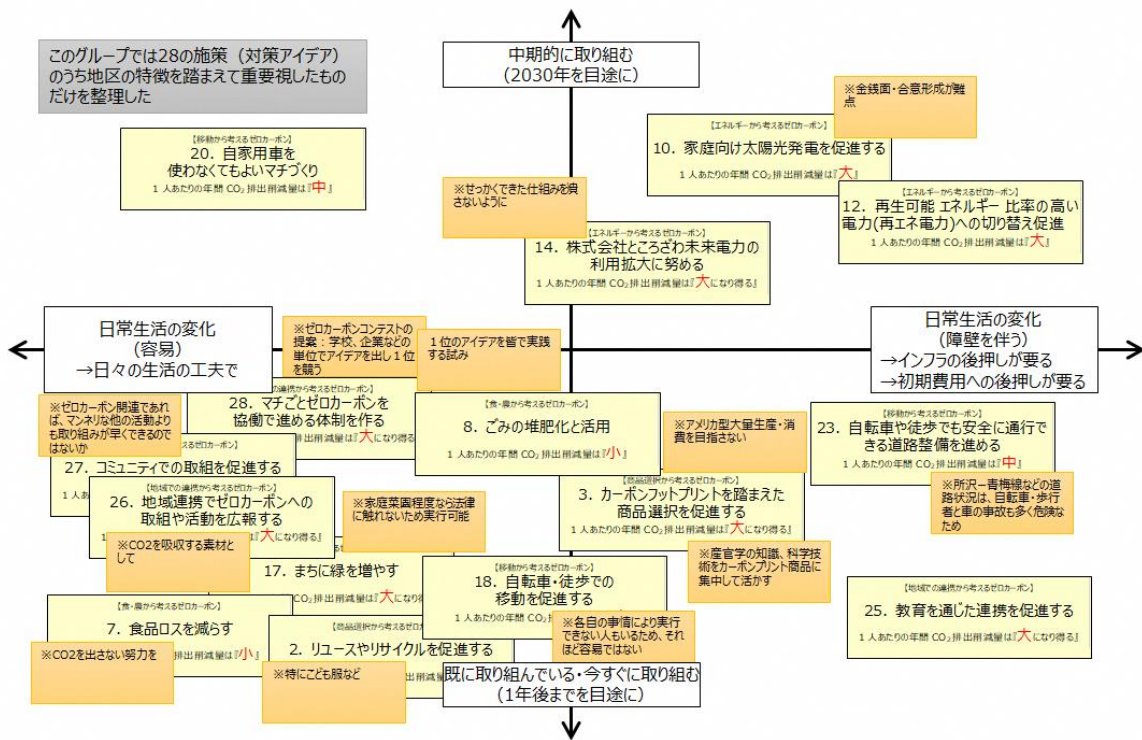


図 5-6 西地区グループ 1 による対策アイデアの整理

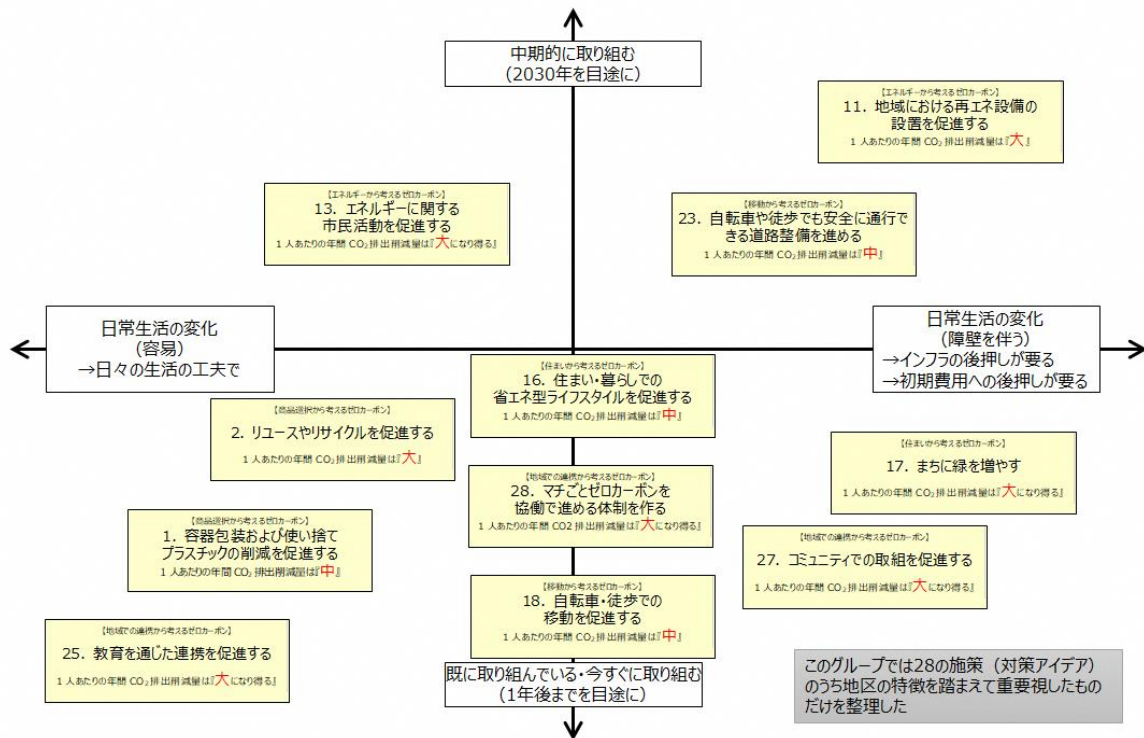
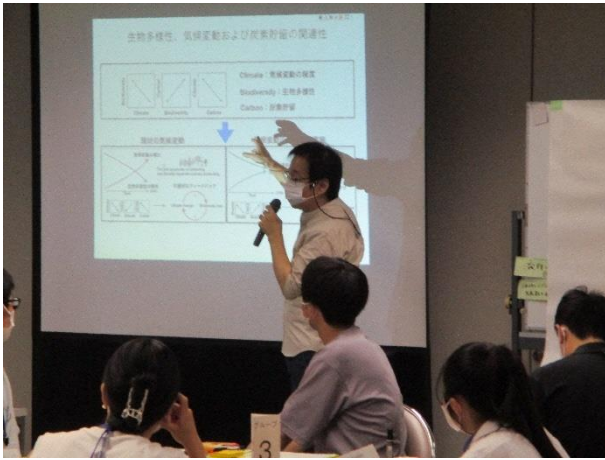


図 5-7 西地区グループ 2 による対策アイデアの整理



## 参考資料： 市民会議での対話の様子



## 集合写真

